
[成果情報名] アカシアおよびソヨゴの挿し木増殖方法

[要約] アカシアの発根率は、ミスト散水を用いて6月に挿し木すると高い。ミスト散水を用いない場合は、1月に、植物成長調整剤処理後、べた掛け密閉して挿し床を加温する。ソヨゴの発根率はミスト散水を用いると高い。ミスト散水を用いない場合は、1～5月にべた掛け密閉する。

[キーワード] アカシア、ソヨゴ、挿し木、発根率、ミスト散水

[担当部署] 苗木・花き部；花きチーム

[連絡先] 0943-72-2243

[対象項目] 花木・緑化木

[専門項目] 栽培

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

近年の緑化木生産分野では、アカシアの切り枝およびソヨゴの苗木の需要が高まっている。アカシアでは切り枝形質の均一化、雌雄異株のソヨゴでは需要の高い雌株の効率的な増殖が求められており、挿し木による栄養繁殖が有効であるが、発根率が低いことが課題である。

そこで、アカシアおよびソヨゴ（雌株）の挿し木における発根率向上技術を開発する。

（要望機関名：久留米普及セ、J A筑前あさくら（R1、R2））

[成果の内容・特徴]

1. アカシアの発根率は、べた掛け密閉よりミスト散水で高く、挿し木時期は6月が高い（図1）。
2. 6月のミスト散水におけるアカシアの発根率は、挿し木に用いる枝の長さを120cm以上に比べ90cm以下とすると高い（図2）。
3. 簡易な手法として行われているべた掛け密閉について、アカシアの1月の発根率は、植物成長調整剤処理（IBA液剤2倍10秒浸漬）した挿し穂を、加温（25℃）した挿し床に挿し木すると、無処理、無加温と比べて高い（表1）。
4. ソヨゴの発根率は、べた掛け密閉に比べ、ミスト散水で通年高い（図3）。
5. 簡易な手法として行われているべた掛け密閉について、ソヨゴの発根率は、他の挿し木時期に比べ1～5月で高い（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. アカシアおよびソヨゴの挿し木資料に活用できる。
2. ミスト散水は、秋～春季は保温ハウス、夏季は雨よけハウスで利用できる。本成果は、時間帯および間隔を、夏季は7時から19時まで15分間隔、冬季は9時から16時まで60分間隔とした結果である。
3. ベタ掛け密閉は、ポリフィルム等を用いて隙間なく完全に密閉し、寒冷紗等を被覆して過剰な高温とならないよう管理する。

[具体的データ]

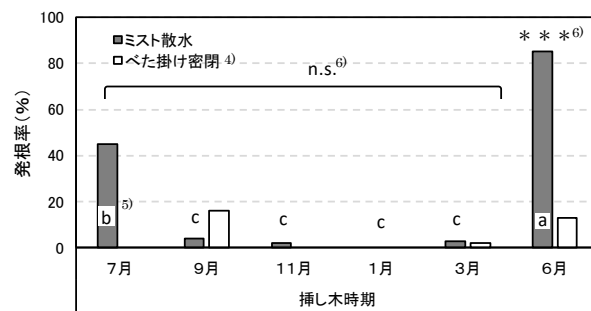


図1 アカシアの挿し木時期および管理方法と発根率（令和3、4年）

- 注）1. 品種：ブルーブッシュ（以下同）
 2. 挿し穂の調整：長さ8cm、基部4cm摘葉、頂芽除去（以下同）
 3. 挿し木用土：パーミキュライト（小粒）
 4. 挿し床をポリフィルムでべた掛け被覆
 5. ミスト散水区の挿し木時期について Benjamini-Hochberg 法により同列異文字間に5%水準で有意差あり
 6. 挿し木後の管理方法についてフィッシャーの正確確率検定により***:0.1%水準で有意差あり、n.s.:有意差なし

表1 アカシアの1月べた掛け密閉³⁾における挿し木方法と発根率（令和5年）

植物成長調整剤	挿し床加温 ⁴⁾	発根率 (%)
有	25℃	88.5 a ⁶⁾
	18℃	55.8 b
	無し	38.6 c
無	25℃	55.0 b
	18℃	33.0 c
	無し	11.5 d
フィッシャーの正確確率検定		*** ⁵⁾

- 注）1. 挿し穂の調整に用いた枝の長さ：90cm
 2. 挿し木用土：パーライト:無調整ピートモス=1:1
 3. べた掛け密閉：パイプハウス内に設置したトンネル内に、保温マット、発泡スチロール、農電園芸マット（日本ノーデン（株））を置き挿し木床を静置
 4. 農電園芸マットを農電サーモ（日本ノーデン（株））に接続し設定温度に加温
 5. ***0.1%水準で有意差あり
 6. 試験区間の発根率について Benjamini-Hochberg 法により同列異文字間5%水準で有意差あり

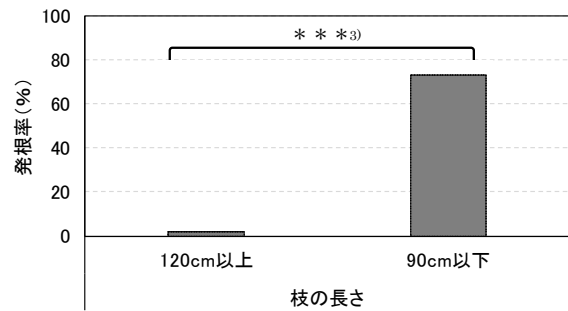


図2 アカシアの6月ミスト散水における枝の長さ¹⁾と発根率（令和4年）

- 注）1. 挿し穂の調整に用いた枝の長さ
 2. 挿し木時期・方法：6月・ミスト散水
 3. フィッシャーの正確確率検定により***:0.1%水準で有意差あり

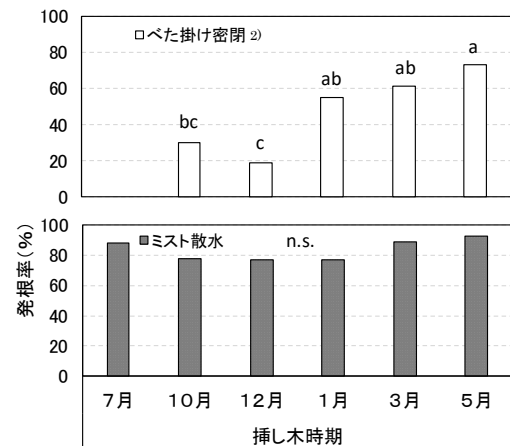


図3 ソヨゴの挿し木時期および管理方法と発根率（令和5年）

- 注）1. 挿し木用土：パーミキュライト（小粒）
 2. 挿し床をポリフィルムでべた掛け被覆
 3. フィッシャーの正確確率検定により n.s. 有意差なし
 4. Benjamini-Hochberg 法により同列異文字間に5%水準で有意差あり

[その他]

研究課題名：花木類の挿し木による効率的増殖方法の確立

予算区分：経常

研究期間：令和5年度（令和3～5年度）

研究担当者：村井かほり、池田朱里、瀬戸山修仁、安永智希、井樋昭宏

発表論文等：なし